

## 令和4年度第2回函館市福祉のまちづくり推進委員会 会議概要

### 1 日時

令和5年(2023年)2月16日(木) 午後6時00分～午後7時15分

### 2 場所

函館市役所本庁舎 8階大会議室

### 3 報告事項

- (1) 福祉拠点開設後の状況について
- (2) 令和5年度函館市一般会計予算の概要について

### 4 協議事項

- (1) 第4次函館市地域福祉計画の中間評価について
- (2) その他

### 5 会議資料

- (1) 資料1 第4次函館市地域福祉計画の中間評価について(案)
- (2) 資料2 第4次函館市地域福祉計画中間評価シート(サンプル)
- (3) 当日配布資料1 「福祉拠点」開設後の自立相談支援機関の相談状況について
- (4) 当日配布資料2 令和5(2023)年度函館市各会計予算(案)資料
- (5) 当日配布資料3 平成30年(2018年)に実施した意識調査に関する調査概要

### 6 出席委員(16名)

安藤とし子委員, 安藤眞理委員, 池田委員, 石岡委員, 石田委員, 勝又委員, 齋藤委員, 島修一委員, 島信一朗委員, 相馬委員, 高田委員, 中村委員, 林委員, 東委員, 干場委員, 宮川委員

### 7 欠席委員(1名)

前田委員

### 8 傍聴

0名

### 9 報道

0社

## 10 事務局職員

佐藤保健福祉部長， 氣田保健福祉部次長  
金指地域福祉課長， 伊藤福祉拠点担当課長  
地域福祉課 伊藤主査， 山田主査， 若狭主事

## 11 会議要旨

- (1) 開会
- (2) 保健福祉部長挨拶
- (3) 報告事項
- (4) 協議事項
- (5) 閉会

## 12 会議録

### (1) 開会

(事務局 地域福祉課主査)

ただいまから，令和4年度第2回函館市福祉のまちづくり推進委員会を開催する。まず保健福祉部長より挨拶申し上げます。

### (2) 保健福祉部長挨拶

(事務局 保健福祉部長)

－保健福祉部長 挨拶－

(事務局 地域福祉課主査)

ここからの会議の進行は，委員長を議長として進めて行く。

### (3) 報告事項

(池田委員長)

それでは，議題に沿って進めていく。報告事項(1)福祉拠点開設後の状況について，事務局から報告願いたい。

(事務局 福祉拠点担当課長)

－資料1 資料説明－

(池田委員長)

事務局からの報告について、意見等はあるか。

何ものなければ、私から林委員に聞きたい。包括の活動では福祉拠点が出来たことで、高齢者の課題で福祉拠点と連携した事例などは発生しているか。

(林委員)

今までは高齢者の相談支援機関ということで、高齢者に絡んだ部分でしか動けなかったが、福祉拠点として全世代対応型になったことでより自由に動けるようになった。

地域の課題としては高齢者や障がい者に限らず、生きづらさを抱えている様々な人たちに手を加える事ができるようになり、30代～50代からの相談が増えてきたと実感している。

これからも福祉拠点、市の担当者等と研修会などを行いながら、様々な機関と連携を図っていきたい。

(池田委員長)

コロナの影響はあるか。

(林委員)

昨年の4月からの開設なので、影響は感じていない。

(池田委員長)

中村委員に聞きたい。民生委員の活動の中で、実際に福祉拠点の相談は増えているか。

(中村委員)

目に見えて増えてはいないが、資料を拝見して福祉拠点が機能して成功していることが分かった。相談先が複数あるのは心強い。

(池田委員長)

安藤とし子委員に聞きたい。ひきこもり支援が増えているが、ひきこもり家族交流会が受ける相談の中で、福祉拠点に引き継いだようなケースはあったか。

(安藤とし子委員)

相談場所が増えたことで、それまで知らずにいた人が相談に行けるようになり、外出ができる人にとっては大きな成果と言える。

ただ一方で、部屋から出られず、窓口に繋がらない方々がいる。孤立している方々に、こちらからアクセスしていくのが課題である。

(池田委員長)

他に意見等あるか。

(東委員)

ひきこもりや不登校など家から出られない人、生活弱者など目に見えない部分を拾い上げ、支援を継続していくことが力になると考える。

(池田委員長)

では、報告事項(2)令和5年度函館市一般会計予算の概要について、事務局から報告願いたい。

(事務局 地域福祉課長)

—当日配布資料2 資料説明—

(池田委員長)

事務局からの報告について、意見等あるか。

(各委員)

意見なし。

#### (4) 協議事項

(池田委員長)

では、協議事項(1)第4次函館市地域福祉計画の中間評価について、事務局から報告願いたい。

(事務局 地域福祉課長)

—資料1, 資料2, 当日配布資料3 資料説明—

(池田委員長)

事務局からの報告について、意見等はあるか。

私から林委員に聞きたい。福祉拠点には集いの場としての機能もあると思うが、今後の展開として何か考えがあるか。

(林委員)

昨年一年間は福祉拠点・包括を知ってもらうために、まず広報に力を入れてきた。後半はそれぞれの福祉拠点でイベントなどを開催して活動につなげている。たとえば、交流スペースで健康教室や認知症カフェを開いたりしている。

今後の展開として令和5年度はさらに交流スペースの有効的な活用を検討し、イベント的な事や世代がつながるような取り組みを仕掛けていきたい。

(池田委員長)

10か所の拠点と連携をとっているのか。

(林委員)

月に一回、包括の自立相談支援委員会を開催し、情報共有と定期検討を行っている。

自立部門は去年の4月にできたばかりで、まだ仕組みづくりの段階であるため、函館市の福祉拠点や部局とすり合わせを行いながら、函館としての福祉拠点・函館スタイルを構築していきたい。

(池田委員長)

拠点づくりの未来が見えてきたようで喜ばしい。

10か所の福祉拠点がアイデアを持ち寄り、委員会を開催して、市とも連携しながら新たな展開を模していけたらと、希望が持てる。

齋藤委員に聞きたい。当日資料3の「8 隣近所の認知度」では、ほとんど知らないと答えた割合が20～39歳で35.7%、「10 地域の中で違う世代との交流の有無」では、ほとんどない・全くないと答えた割合が20～39歳で66.5%となっている。

こういう状況の中で若い世代の地域に対する関心は実際どうなのか。学生からは話などあるか。

(齋藤委員)

地域のまちづくりについて勉強している学生たちは、座学の部分では必要性を感じ、機会があれば参加したいと思っはいるが、生活に根差しているかといえはそうではない。

意識調査をすることによって、福祉のまちづくりに対する意識が高まることに繋がり、何か意味があると思われる。

ただ、対象調査だけではなくグループでディスカッションしながら今の若者たちの生活実感を数量的に調査したものと合わせて捉えていく調査があってもよいかと思う。

また、改善策を議論していく時に、若者たちや企業と話し合ったりする機会があればと思う。

(池田委員長)

ワーキンググループなど学生と話し合う機会を作ればもう少しよくなるのではと感じる。

町内会や在宅福祉委員会の人たちが高齢化していることから、若い人たちに繋いでいかなければ町内会そのものの存続も危ういと危惧している。齋藤委員からのヒントを活かしながらやっていければと思う。

高田委員に聞きたい。同じ質問になるが、若い世代の地域に対する関心は実際どうなのか。

(高田委員)

函館市青年センターからは、コロナの関係でしばらく活動がなかったが、少しずつサークルが復活していると聞いている。センターは学生が集まりやすい場所なので、いい意味で若者たちのたまり場になればと思っている。

また、若者たちがサークルに興味を持ちサークル参加に繋がっているようであり、福祉拠点でイベント等を開催したときに、発表の場を設けてもらえれば、彼らの意欲に繋がり、成果を得ることが魅力となるのではないか。さらに、地域の人達と交流を深めていくことに繋がると考える。

(池田委員長)

他に意見等ある委員はいるか。

(島委員)

意識調査は非常に重要なものであると認識している。

したがって、より実践的な調査する必要があると考えているが、そこで3点ほど質問したい。

- 1 調査項目の性別欄であるが、LGBTQをどう取り扱うのか。
- 2 現段階の案として考えられる福祉拠点に関する調査内容の項目について、教えてほしい。
- 3 前は自由項目の記載が無かったが、今回は設けるのか。

(事務局 地域福祉課長)

調査に対する案は具体的には決まっていない。LGBTQについては社会性を踏まえ検討していきたい。

福祉拠点に対する質問項目であるが、今回の会議内容を踏まえながら内容を検討したい。

自由記載については、前回記載欄を設けていなかったが、今回の調査については今後、考えながら組み立てていきたい。

(島委員)

参考として令和5年2月13日に開催された「函館市障がい者計画策定推進委員会」における障がい者のアンケート調査の話をしたい。

当事者の現状が伝わる・福祉の真にせまるアンケートの結果内容であったことから、障がい保健福祉課内に留めるだけでなく広く共有し、公表することで、多くの人に現実を知って欲しい。

同調査の結果は今回の中間評価に係る意識調査にも通じるものがあると考えられる。共有して参考にしながら反映してほしいと感じている。

調査に関して市民の感覚ではイエスかノーかで測れない部分も多くあり、リアルな声を反映していくことが望ましい。特に福祉拠点は全国的においても素晴らしい事業である。手厚く掘り下げて実際に利用している人たちの声をすくいあげてほしい。

(事務局 地域福祉課長)

島委員の意見を重く受け止めている。

どのような形になるかは分からないが、是非反映していきたい。

(池田委員長)

勝又委員に。資料1に計画の見直しとあるが、地域福祉計画に再犯防止計画が含まれることとしたが、再犯防止のために地域で関われることはあるか。何かヒントはないか。

(勝又委員)

新しい犯罪は減っているが、約40%は再犯である。繰り返すことを減らさなければ犯罪は減らない。社会貢献活動として春と秋に、協力していただける町会とクリーン活動を行っているが、一緒にゴミ拾い活動をすることによって得るものが沢山ある。地域包括支援センターで行うイベント等にも一緒に活動できる形を作ればと思っている。

(池田委員長)

何か活動の事例はあるか。

(勝又委員)

介護施設での手伝いや作業などを地域の方と一緒にやる活動がある。また、お兄さんお姉さんとなって子供たちと関わる、BBS会というボランティア団体が北海道教育大学函館校を拠点に活動しているのだが、人数が減って存続が危ない状況である。

先ほどの話を聞き、青年センターの方々と連携をとれば、活動を広げられるのではと思う。

(林委員)

先ほどの、勝又委員、高田委員の話を聞き、嬉しく思うとともにより良い連携が組めればと思っている。

アンケートの件に戻るが、調査をみても企業の地域貢献に関する意識が高まっていると感じる。

意識調査では近隣との関係の希薄さが浮き彫りになっているが、同時に課題を抑えている人が多くいることも分かった。今後の地域づくり活動の仕掛けに活用できるのではないかと感じる。

余談ではあるが、福祉拠点・地域包括支援センターとして、日々努力しているが、函館で地域包括支援センターが担っているのは、生活困窮者自立支援法だけであり、法に縛られ柔軟な動きができない。

しかしながら、「それではいけない」という包括の思い・函館市担当課の思いで、法を柔軟に解釈しながら、函館市としての福祉の地域づくりに取り組んでいるところであることを申し添えたい。

(池田委員長)

枠にとらわれず、函館方式でチャレンジしてほしい。

今回、良い意見が多く出たので市には是非参考にしてほしいと思う。



では、最後に協議事項（２）その他について、事務局から何かあるか。

（事務局 地域福祉課主査）

今年は、委員の改選の年である。

現在、委嘱している委員の任期は令和５年６月３０日までとなっていることから、新年度に入ってから委員委嘱の依頼文を所属長あて送付させていただく。

（池田委員長）

最後に皆さんから全体について何かあるか。

（６）閉会

（池田委員長）

それでは今回の会議はこれで終了とする。

委員の皆様、ありがとうございました。